

ダム建設事業等に関する再評価項目

事業名		猪名川総合開発(余野川ダム)事業	事業主体	近畿地方建設局
代 替 案 の 検 討	代替案	内容と長所、短所		事業費 (平成9年度換算)
	堤防嵩上げ	ダムがない場合の流量増に対する対応として、堤防を高くすることにより河道により処理する。 洪水時の河道水位が高い状態で大量の洪水を処理することから、堤防に大きな圧力を与える結果となり、万一破堤した場合被害を増大させることとなる。		約590億円
	河床掘削	ダムがない場合の流量増に対する対応策として、河床を掘削することにより河道により処理する。 河床掘削により、既設の護岸、橋梁等の対策のほか、河床掘削に伴う掘削土量約210万m ³ の処分地の確保が必要になる。		約680億円
	遊水地	ダムがない場合の流量増に対する対応として、洪水を一時的に貯留する池(遊水池)を造り、下流の洪水を低減させる。 遊水地にともない家屋、水田の補償の他、国道、市道の付け替えが必要となる。		約3,820億円
	放水路	ダムがない場合の流量増に対する対応策として、猪名川と藻川が分派する地点から海までトンネルを掘り、そこから下流の洪水を低減させる。 長大なトンネルを主に国道の地下に建設するため、交通対策が困難なことから、トンネル出口から海への排水対策が必要になる。		約1,950億円
	既設ダム嵩上げ	ダムがない場合の流量増に対する対応策として、既設の一庫ダムを嵩上げすることにより、洪水をダムで処理する。 嵩上げ工事の期間は、洪水調節効果が期待できず、下流の治水・利水安全度が著しく低下する。		約810億円
	緊急代替案 河床掘削	猪名川の治水安全度約1/4を他の都市河川並の1/40まで緊急的に確保するため、河床掘削を実施する。 河床掘削により多量の掘削土の処分地確保と、JR東海道本線の架け替えが必要である。架け替え(6線のうち4線)には、関係機関との調整と技術的課題が多く緊急には困難である。		約1,160億円
現計画	現計画地点に余野川ダムを建設し、洪水調節を行う。 事業費は、洪水調節相当分(容量比により配分)。		400億円 52%	
現計画では、洪水調節の効果に加え、利水の効果も見込まれる。				
コスト削減策	大阪府施工の「水と緑の健康都市特定土地地区画整理事業」との事業連携による掘削残土、盛土材の相互利用によるコスト削減等を計画している。その他、仮設備等への新技術の採用、ダム施工での合理化等について、今後検討を進めることにしている。			
(事業概要図)				
別紙				